

＜ 著者略歴紹介(『高校数学が愉しく解けるようになる問題集』) ＞

著者	津間 保 (Tsuma Tamotsu)	
	昭和27年4月生まれ	
学歴	芦屋市立山手小学校	
	芦屋市立山手中学校	⇒野球部所属(捕手)
	兵庫県立芦屋高等学校	⇒ラグビー部所属(ロック)
	大阪大学理学部数学科	⇒ラグビー部所属(ロック)、4年次主将
趣味	囲碁 二段	[4年次に大阪学生選抜メンバーに選出され、当時日本一の近鉄との試合(花園ラグビー場)に出場。関西代表の候補選手にも推薦される。]

勤務校 (勤務順)	兵庫県立芦屋高等学校	4年勤務	(偏) 54
	兵庫県立西宮南高等学校	4年勤務	(偏) 49
	兵庫県立川西緑台高等学校	8年勤務	(偏) 61
	兵庫県立高砂南高等学校	3年勤務	(偏) 51
	兵庫県立明石西高等学校	11年勤務	(偏) 47
	兵庫県立舞子高等学校	5年勤務	(偏) 53

* 津間 保 のプリント問題集による授業について

【1】	<p>約20年前からプリント授業を開始。プリントを配布し、原則として説明をしないで机間巡視するだけの授業で、生徒の質問は個々に説明していた。教科書は使わない。(プリントの重要ポイントと2名以上同じ質問があった場合のみ、黒板で説明。)同じ形態で約20年間実施してきたが、実施のたびごとにプリントは改良している。全国模試偏差値50程度あれば、ほとんど質問しなくても1時間で1枚完成できる。(20分～30分で完成する生徒は、指示しなくても完成後は問題集をやっていた。) 力のある生徒からは、不要な説明で待たされたりせずどんどん進めていけるのが好評。また、学力の少し劣る生徒からは、大事な所を何回もプリントで復習できるのが好評。(低学力の生徒で、1時間で半分しかできず残りをやっけていなくても、また、1回や2回授業を欠席しても、次のプリントに取り組んでいけるように作成している。) 定期考査において、他の教諭のクラスの平均点より常に5点～20点は上であったと自負している。10点以上の差がつけば生徒も気付き、教えていない生徒もプリントを取りに来だし、20点近い差のある授業の場合はほとんどの生徒が取りに来ていた。(毎年、プリントをもう1枚取りに来て、自宅でもう1回やるという生徒がいた。その生徒の定期考査や実力考査の成績は、中位からトップクラスに向上していた。)</p>
【2】	<p>受験対策用プリントは、約15年前から開始したもので、授業や早朝補習で用いたプリントを年々改良したもの。【1】の教科書理解用プリントと同じ趣旨で作成。神戸大学・大阪大学を希望する生徒を意識したレベルにしているが、生徒の個々の学力に関係なく意欲があれば理解できるように配慮、作成している。2次対策用プリントは、頻出問題と経験がなければ差がつきそうな受験特有の問題を網羅し、難問・奇問をすべて排除、高校生が受験不安にならないように作成している。センター試験対策用のつなぎプリントと基礎編プリントで受験の基礎をかため、基本のできた分野について順次、2次対策用プリントをやっけていけば効率的である。当初、塾・予備校での受験数学に期待していた生徒も、受験用プリントの全体構成と年間計画を説明すれば安心し、予備校よりも授業・早朝補習の数学を優先するようになっていったケースが多い。(受験に向けてのプリント学習の年間計画と必要総時間数を提示することが安心させるポイント。)</p>
注)	<p>1) 生徒の個々の質問に対して、理解できるようにいろんな説明の工夫経験の結果、最も理解しやすいであろうという解き方・考え方にしている。したがって、教科書や既存の参考書と説明の仕方が違う所が多い。2) 教科書理解のプリントでも、大学受験を意識した構成にしている。例えば、数学Ⅰの三角比では、数学Ⅱとの関連を考えて360°まで扱っている。</p>